

小学校 知的障害特別支援学級 生活単元学習指導案

1 単元名 お世話になった人におくりものをしよう

2 単元について

(1) 単元観

本単元「お世話になった人におくりものをしよう」は、日頃から何らかの関わりのある人を意識させることで、感謝する気持ちの育成を目指すものである。1学期に行った「牛乳パックでティッシュケースを作ろう」の創作活動では、安全な道具の扱い方の学習を行い、安全を意識して丁寧に作品を作り上げることを目標に行った。本単元では、その経験を生かし、渡す相手を意識しながら、プレゼントを作り、直接手渡すことで、相手から感謝される喜びを味わうことができる。また、自分一人の力で作り上げたものをプレゼントする活動をとおして、努力から生まれる自信へつなぎ、主体的に取り組める学習活動へと発展させたい。

(2) 児童の単元における実態

本児は、やや吃音があるものの明るく元気に学校生活を送っている。友達や教員との会話に関しても特に嫌がる様子もなく、休み時間などのときに自分から気軽に話しかけることができる。活動面に関しては、活動内容や順番等が分かり見通しがもてたときは主体的に取り組むことができる。しかし、目的やねらいをもって相手に話しかけたり、評価を意識して「上手くやらないと」という気持ちになると、かしこまってしまったり、緊張してしまったりして、人の関わりや活動に主体的に取り組むことが難しくなってしまう。教員間では、本人の実態について共通理解を図り、本人が臆してしまったときには、本人がやりやすいようにサポートしている。徐々にではあるが、教員のサポートが入ることで「できる」「できた」という自信が見られるようになってきた。しかし、いろいろな人にお世話になりながら日々の生活を送っているという意識はなく、相手に感謝するという気持ちがあまり育っていない。それは、本人が相手から感謝されるという経験が少なく、「～のおかげで」「～ありがとう」という相手から感謝される喜びを感じる経験が不足しているからと考えられる。

(3) 指導にあたって

受け取った人に喜んでもらうためにも、もうう側の立場になって丁寧に作ることの意識を高めたい。そのためには、渡す相手の写真を掲示したり、今作っているのは「何のためなのか」「もらった相手は、どう思うか」を活動中に問いかけたりすることで、常に渡す相手の意識付けを図っていく。また、自分一人の力で作り上げるためには、活動の見通しを分かりやすく提示し、自力で作るための補助具が必要である。1学期の経験を生かすためにも、素材は同じ物を使い、基本的な創作工程は同じにする。型の取り方や切断の仕方等に関しては、やや難易度を上げた活動にすることで集中させた活動を目指したい。また、工程ごとに振り返りを行い、頑張りを賞賛することで、達成感や満足感を得るようにし、次の工程に取り組む意欲を高め、一人で作り上げる意識の持続につなげるようとする。

3 児童の実態と個別目標

〈単元における実態〉

- 日常生活においてある程度親しくなると、自分から進んで相手に声をかけることができる。
- 日頃、サポートしてくれている人に対して、あまり感謝の気持ちがみられず、表面的な関わりとなってしまう。
- 手先が不器用で、細かい作業を苦手としており、活動を避ける傾向がある。
- 視覚的な手がかりによって、注意を向けたり、理解が促進されたりすることが多い。
- 線を引く、線に沿って切るといったときに、曲がってしまうことが多い。

〈単元における目標〉

- 「いつも・・で」「・・の時」「・・してくれた」「うれしかった」「たのしかった」「ありがとう」のキーワードを使い、その人との関わりについて説明することができる。【3-(1)】
- 制作手順を一人で確認しながら、作り方の順番に従って、最後まで一人で集中してペン立てを完成させることができる。【5-(5)】
- プレゼントする相手を意識して、感謝の気持ちが伝わるキーワードを入れてメッセージを書くことができる。【6-(2)】

4 指導計画と評価（10時間扱い）

第1次 オリエンテーション・・・・・・・・・・・・ 2時間

第2次 ペン立てを作ろう・・・・・・・・・・・・ 7時間

時	主な学習内容・活動	評価
3～9 (本時は5)	○ペン立てを作る。 <ul style="list-style-type: none"> ・型紙を使って型をとる。 ・カッターを使って型を切る。 ・切ったものを貼り合わせる。 ・プレゼントに添えるカードにお礼のメッセージを書く。 ・今日の活動を振り返る。 	○作り方の順番に従って、ペン立てを作ることができる。 ○型紙にそって牛乳パックや色画用紙に線を引いて型をとることができます。【5-(5)】 ○線を意識して、線の上をはさみやカッターを使って切ることができます。【5-(5)】 ○プレゼントを贈る相手を意識して、カードに感謝の気持ちが伝わるキーワードを入れて、メッセージを書くことができる。 【6-(2)】 ○ペン立てを作ったことやお世話になった人にプレゼントしたときの気持ちを、言葉や文に表すことができる。

第3次 活動を振り返ろう・・・・・・・・・・・・ 1時間

5 本時の指導

(1) 児童の実態と個別目標

実態		目標
A	<ul style="list-style-type: none"> ・図や写真などで内容を提示すれば、集中して活動を進めることができる。 ・カッターを使用して紙を切る体験をしているものの、定規を固定しながらまっすぐに切るのはまだ難しく、時折、定規がずれてしまい、切り方が斜めになってしまうことがある。 ・カードにメッセージを書くことはできるが、文章が単調になりがちである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作り方の順番に従って、一人でペン立てを作ることができます。 ・定規（線）に沿ってカッターで紙を切ることができます。【5-(5)】 ・感謝の気持ちが伝わるキーワードを入れてメッセージを書くことができる。

(2) 準備物等

教材・教具	使用する目的及び使用者	使用場面
活動の流れが書かれている掲示物 プレゼントする相手の写真	活動の流れを確認する。 プレゼントを渡す相手が分かる。 (教員・児童)	開始時

牛乳パック、色画用紙、型紙、カッター、定規、カッターマット、油性ペンなどの筆記用具、カッター練習用の補助具 練習用紙(カッターの使い方の練習) 飾り用イラスト紙、テープのり、輪ゴム 木工用ボンド、手順表	ペン立て作り(児童)	ペン立て作りの活動中
パーツケース	切ったパーツを入れておく。(児童)	切る活動中
振り返りカード	自己評価(児童)	活動が切り替わる時
チェック表	児童の評価(教員)	常時

(3) 展開

時間	学習内容・活動	教師の指導・支援と評価(◎評価)
5	<p>1 活動内容やプレゼントを渡す相手を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼントを渡す相手とのエピソードを発表する。 ・本時のめあての確認をする。 じょうぎをつかって、せんの上を切ろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の流れが見て分かるように、全体の活動内容を文字にして掲示する。 ・誰にペン立てをプレゼントするのかを意識できるように、プレゼントを渡す相手の写真を掲示する。 ・エピソードの発表の際、なかなか言葉が出ないときには、発問して伝えたいことを引き出す。 ・「めあてカード」を読ませた後、活動の注意点について発問し、理解の確認を行う。
30	<p>2 ペン立てを作る。</p> <p>(1)型をとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数字の1から順に型紙を置き サインペンで線を引く。 ・型に沿って線が引けたか、型紙と比較して確認する。 <p>(2)カッターで切る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・線上を切る練習をする。 ・数字の順番ごとに、牛乳パックや色紙などをカッターで切る。 ・カッターを使って、線上を切れたか確認する。 <p>(3)紙を貼る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本体の4角、上部、下部に色紙を貼る。 ・面の白い部分に好きなイラスト紙を貼って装飾する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を添付した作業工程表を作成し、自主的に作業が行えるようにする。 ・型紙にあらかじめ数字を書いておくことで、順番よく作業を進めることができるようにする。 ・まっすぐな線が引けるよう型紙を作成し、提示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・牛乳パックを切る前に事前に補助具を活用して、カッターで切る練習を行い、切断時に線を意識して切ることができるようにする。 ・カッターの刃のあて方と線に注目できるよう言葉かけをする。 ・定規がうまく固定できるよう、手を添える。 ・順番ごとにパーツを入れておくケースを準備することで切ったパーツがバラバラにならないようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼントを渡す相手の写真を見せながら、絵柄のサンプル集の中から選べるようにする。 ・テープのりやボンドをつける際に、曲がったり、ズレたりしないように補助線を引いておく。 ・イラスト紙を貼る際に、曲がって貼ることが予想されるので、補助線を引いておく。

		<p>◎作り方の順番に従って、ペン立てを作ることができたか。(観察)</p> <p>◎教員に定規の固定をしてもらいながら、定規(線)に沿ってカッターでまっすぐに紙を切ることができたか。(観察、作品)</p>
5	3 メッセージを書く。 ・贈る人の確認をする。 ・贈る人にメッセージを書く。 ・メッセージを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 誰にプレゼントするのか、また、どんな関わりがあったのかを、写真や贈りたい理由の書かれたふき出しで確認することで、メッセージカードを書くことができるようとする。 <p>◎感謝の気持ちが伝わるキーワードを入れてメッセージを書くことができたか。(メッセージカード)</p>
5	4 振り返りをする。 ・自己評価表をもとにがんばったところ、次回がんばるところを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価表に記入した評価○△を付けた理由が発表できたときには大いに賞賛する。 なかなか理由が発表できないときには、先に教員の評価を見せて説明し、その後に「○はどこがうまくできた?」と發問して発表しやすくする。 次の課題に気付かないときには、児童の評価表の△が続いているところを指で指し、気付きやすくする。 △が○に変わったところは、頑張ったところであることを伝え、次時の学習意欲が高まるよう賞賛する。